高等部道徳科学習指導案 『なっとう憲法』

**１　主題名**　集団の一人として　C-(1５）　よりよい学校生活　集団生活の充実

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・集団の一人として

・学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合って、よりよい雰囲気を作る。

・集団の中での自分の役割や責任を自覚し、集団生活の充実に努める。

（2）教材　なっとう憲法　（P７２-７５）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| C　主として集団生活や社会との関わりに関すること　（１５）　よりよい学校生活　集団生活の充実教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風を作るとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割や責任を自覚して集団生活の充実に努めること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

生徒にとって学級や学校は、生活の大半を過ごす大切な場である。学級や学校での生活を通して、お互いの人間関係を深め、協力して生活することで、尊敬や感謝の気持ちが育まれていく。また、集団の中で自分の役割や責任を果たすことは、集団生活が充実するだけでなく、本人の資質・能力を高め、自分自身の向上につながっていく。

集団の目的や意義を理解し、個々の力を合わせ、協力し合って集団生活の向上に努める態度を育むとともに、一人一人が自分の個性や長所を発揮できるような集団の在り方を考える機会としたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で伝えることができる生徒を対象とする。言葉による発表が苦手な生徒に対しては選択肢を用意し、文字を書くことが苦手な生徒に対してはタブレットによる文字入力や音声入力、代筆による支援などの配慮を行う。

学校生活においては、生徒が教師や先輩、級友、後輩との信頼関係を築き、愛情をもって接することができるよう、日常的にコミュニケーションの大切さを伝え、挨拶や感謝、礼儀の指導と関連させながら、表情や身体表現、発語など様々な方法で相手に伝えることの重要性を指導する。また、協働的な学びにおいても、他の生徒との関わりを通して、相手を尊重し、集団の一員として協力し励まし合う態度について学ばせる。

（３）教材について【教材観】

ホームルームでの話し合いから生まれた、「なっとう憲法」というクラス目標について紹介してあり、挿絵にはクラスでの話し合いの様子と「なっとう憲法」の内容が描かれている。

本文を通して、学級集団をよりよくするための目標や責任について知り、自分に何ができるかを具体的に考えることで、自分自身の学級生活に生かせる教材となっている。更に、「つなげよう」のコーナーでは部活動や地域生活に触れ、様々な集団での役割を考える機会が設定されている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　「なっとう憲法」拡大版（板書でも良い）、藁納豆の画像、補助プリント（集団での役割）

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点☆評価の観点 |
| 導入 |  | １　なっとうのイメージについて聞く。〇「憲法」と聞いて思い浮かべるイメージは何ですか。 | ・ねばねば。・においがある。・好き、苦手。・朝ご飯に食べる。・むずかしい**・きまり、ルール** | ・本文に出てくる「なっとう憲法」という言葉の前段階として、イメージを聞き学習に興味をもたせる。 |
| 展開 |  | 2　教材　　「なっとう憲法」を読み、文章の内容を把握する。〇仁美さんのクラスの課題は何ですか。・「なっとう憲法」を提示し、１から順番に内容を読み取る。・実際の藁納豆の画像を提示する。〇「なっとう憲法」について、仁美さんのクラスでは拍手が起こりましたが、みなさんはどう思いましたか。３　本文P７４の問いに答える。課題　仁美さんのクラスの「なっとう憲法」について考えてみよう。○「なっとう憲法」ができたことで、どんな成果があると思いますか。〇自分がこのクラスにいたら、どんなことを頑張りたくなるだろう。・仁美さんのクラスに限定せず、自分の学級で頑張りたいことを考えることで、具体的なイメージをもたせる。・考えた内容を発表し合い、発表内容に対して意見交換を行う。４　本文P７５「つなげよう」の課題に取り組む。課題　身近な集団の中で、自分にできることを考えてみよう。・それぞれの集団での役割を考える。・部活動をもっと楽しくするには。・地域の活動でもっと頑張れること。・その他の集団の中で今できること。※画像を提示することにより、それぞれの集団のイメージをもたせる・書いた内容を発表し合う。・読み上げによる発表・プリントの撮影による画面発表・教師の代読による発表 | ・まとまりがない。・あきらめてしまう。・協力する必要がある。１、なっとうの粘り２、「まめ」と「豆」３、「笑い」と「藁」４、「つながり」・おもしろい。・覚えやすい。・ふざけた感じ。・よく考えている。・選択肢から回答する。・自分で考えたことを記入し、発表する。・係の仕事をする。・みんなと協力する。・みんなと仲良くする。・意見を伝える。・練習中の声かけ・清掃活動への参加。・児童館での小学生の見守り。 | ・文章の流れを理解し、内容を把握する。・回答を板書し、なっとう憲法につなげる。（画像または拡大表示）・「なっとう憲法」が納豆のイメージを元にしていること、掛詞を使っていることを理解する。・意味を理解した上で、「なっとう憲法」についての感想（自由意見）を聞く。・自分達の学級憲法を作りたいという意見には学活での対応を伝える。・発語がない生徒は番号を選択する形で発表する。・選択肢以外の成果も考えてみるよう促し、発表してもらう。・どの意見も尊重し、板書する。☆自分の考えを発表し記入する。・拡大版「なっとう憲法」を使って目標を明確に示し、目標達成のための具体的方法を考えさせる。（思・判・表）・学級内の掲示物や係分担なども提示し、考えの一助とする。・書字が苦手な生徒には文字入力や音声入力、代筆などで支援する。・音声発表が苦手な生徒には、画面表示や代読で支援を行う。・補助プリント（集団での役割）を配布する。・机間指導により個別に声をかけ、具体的なイメージを引き出したり、話しを聴いてアドバイスしたりする。・書字が苦手な生徒に配慮する。☆集団の中での自分の役割について考え、表現しようとしている。（思・判・表）・声を出しての発表は無理強いせず必要に応じて代読や投影を行う。・個々の意見に対して、お互いに反応を示すよう意識させる。 |
| 終末 |  | ５　「なっとう憲法」の文章を通して、学級の中での自分の役割や責任に気付いたことを認め、褒める。・学級作りに対する教師の思いや生徒への愛情を伝え、授業を終了する。 |  | ・それぞれが主体的に考えられたことを認める。・お互いに協力し励まし合うことで学級の友達への尊敬や感謝の気持ちを育てていこうと伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

一人**ひとり**が学級について、「こうしたい」「これならもっとうまくいく」という具体的な考えを伝え、みんなで協力して意見をまとめようとする姿が見られたことは、教師としてとても嬉しい。

教師と生徒それぞれが、学級や学校で自分自身の責任や役割を果たし、お互いに支え合い認め合って理解し合い、協力して生活することで、尊敬や感謝の気持ちが生まれ、よりよい学校生活につながっていく。

お互いの意見を大切にしながら、励まし合って、ともに成長し合える学級作りを、これからも進めていきたい。